

筑波大学附属視覚特別支援学校音楽科

第45回 定期演奏会



日時 2024年10月3日（木）

14時（13時30分開場）

会場 文京シビックホール（小ホール）

主催 筑波大学附属視覚特別支援学校音楽科

イラスト：高等部普通科3年 飯田 雪月

プログラム

1. チャイコフスキー作曲

『くるみ割り人形』より 花のワルツ（連弾）

高等部音楽科1年 長縄美波 矢部菜央

2. ブラームス作曲

ラブソディ 第2番 ト短調 作品79-2

高等部音楽科3年 森谷涼太郎

3. モーツァルト作曲

デュポールのメヌエットによる9つの変奏曲

二長調 作品573

高等部音楽科1年 矢部菜央

4. ショパン作曲

バラード 第3番 変イ長調 作品47

高等部音楽科2年 井上奏人

5. ドビュッシー作曲

『ベルガマスク組曲』より 月の光

高等部音楽科1年 長縄美波

6. ガーシュウィン作曲

ラブソディ・イン・ブルー（江口 玲 編曲より）

高等部音楽科3年 相原晴

7. 〈特別演奏〉

たにし（作者不詳）

歌・三絃 澤村祐司

————— 休 憩 —————

8. 〈音楽科生徒全員による和太鼓アンサンブル〉

黛 敏郎作曲

『沼津太鼓』より 第1曲 富士 第4曲 祭

楽曲解説

1. P.チャイコフスキー作曲 『くるみ割り人形』より 花のワルツ（連弾）

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840年5月7日～1893年11月3日）は、ロシアの作曲家。西洋の音楽に学びながらも、ロシア的な抒情性も併せ持っており、独自の形式や表現方法を編み出した。『くるみ割り人形』といえば、クリスマスの定番のバレエだが、初演されたのは亡くなる前年であり、チャイコフスキー最晩年でありながら最盛期のバレエ音楽である。その13曲目にあたるこの曲は、『くるみ割り人形』のなかでも親しみやすく、おとぎ話の世界に入り込んだような夢見心地な雰囲気を感じられる。物語もクライマックス、主人公クララの愛によって魔法が解けたくるみ割り人形は王子様となり、2人はおとぎの国を訪れる。そこで住人たちが二人を歓迎して踊る音楽は、甘く滑らかな旋律の中にかわいらしい音色が織り交ぜられている。

2. J.ブラームス作曲 ラプソディ 第2番 ト短調 作品79-2

ヨハネス・ブラームス（1833年5月7日～1897年4月3日）は、ドイツの作曲家。当時としては保守的な作風で、伝統的な形式や無彩色的な暗さをよく使った。しかしその古典的なスタイルをただ使っただけではなく、それらにロマン派的な技法・要素を取り入れ、緻密で壮大な楽曲を数多く残した。この曲は1879年に作曲された。この時期のブラームスの創作意欲はとても高い状態にあり、この数年で2曲の交響曲やヴァイオリン協奏曲などの大曲を書き上げている。音楽家とし

でも成功を収めており、同年ブレスラウ大学から名誉博士の称号を贈られている。

この時代における〈ラブソディ〉には、英雄的な幻想曲という意味があり、この曲も重厚感のある低音が特徴的である。「天空を駆け抜ける若きヨハネス」ともいわれるこの曲は、厳格な雰囲気の中にブラームスの激情を感じ取ることができる。

3. W.A.モーツァルト作曲

デュポールのメヌエットによる 9 つの変奏曲 二長調 作品 573

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756 年 1 月 27 日～1791 年 12 月 5 日）は、オーストリアの作曲家。宮廷音楽家の父のもとに生まれ、幼い頃から音楽の才能を発揮したことから「神童」として知られている。また、ハイドン、ベートーヴェンと並んで古典派の代表的作曲家としても有名で、当時の西洋音楽に存在したほぼ全てのジャンルの曲を残している。生涯の後半は宮廷や教会に属さない自由音楽家として活動したが、当時はまだ音楽家は就職するのが普通であり、生活は厳しかったという。この曲は、1789 年 4 月、カール・リヒノフスキー侯の誘いで北ドイツを旅行している際、ポツダムで書かれた。当時プロイセンの宮廷チェロ奏者であったジャン・ピエール・デュポールの作品をもとに書かれているのだが、そこには、生活に困窮する中、プロイセン王のフリードリヒ 2 世から職をもらいたいという思惑があったという。古典派的な明快で優雅な旋律が多様に変化していく曲調はモーツァルトらしい遊び心に溢れている。

4. F.ショパン作曲 バラード第3番 変イ長調 作品47

フレデリック・ショパン（1810年3月1日《2月22日の説もあり》～1849年10月17日）は、ポーランド出身の作曲家。「ピアノの詩人」とも言われる彼は、ピアノの技術面、表現面での可能性を追求し、多くの作品に落とし込んだ。また、祖国ポーランドへの愛着が強かったことでも有名で、活動は主にフランスだったが、ポーランドの民族的な音楽性を大いに取り入れた。同時代を生きたメンデルスゾーンやシューマン、リストらと比べるとあまり社交的な方ではなく、少人数でのサロン・コンサートを好んだようだが、この曲が作曲された1841年ごろは社交の場にも参加していたようだ。また、健康状態も安定し、生活は充実していた。このバラードは他の3曲と違い、明るいコーダで締めくくられる。一説ではこの曲は、ポーランドの詩人ミツキエヴィチの詩『シヴィテジャンカ』にインスピレーションを受けて作られたとされるが定かではない。しかもこの詩は水の精オンディーヌに誘惑された青年が湖に誘われて溺れ死ぬという、ハッピーエンドとは言い難いものである。とはいえ湖の静かな様子やオンディーヌの美しさに惚れる青年の姿は、確かにこの曲の柔らかな音色から想像できる。穏やかで夢のような曲調はショパン自身の心の安定から来たものかもしれないし、言及されていない物語があったのかもしれない。

5. C.ドビュッシー作曲 『ベルガマスク組曲』より 月の光

クロード・ドビュッシー（1862年8月22日～1918年3月25日）は、フランスの作曲家。従来の和声や形式から脱し、音色のニュアンスや曲想に合わせた有

機的な形式を重視したことで、曲の性格をより明確に印象づけるという絵画的手法を音楽において成立させた。組曲の作曲を始めた 1890 年ごろには既にマラルメやボードレールといった象徴派作家らの影響を受け、また万国博覧会で耳にしたカンボジアやジャワの音楽の形式やリズム、楽器構成に感銘を受けたことで、色彩豊かで音響的な新しいスタイルを確立し始めていたと思われる。第 3 曲であるこの曲は組曲の中で唯一具体的な現象が標題にされていて、月の光が差し込む様子を体現するかのような神秘的なハーモニーが印象強い。9/8 拍子のアウフタクト（最初の 1 拍が休符）で始まり、タイや連符が多用されることで、拍節感（ビート）が曖昧になり、つかみどころのない曲調になっている。静かな冒頭部から、中間部では高低差のある波のようなパッセージとなり、それが過ぎ去ると冒頭のテーマがアルペジオを伴って再現され、木々の間から少しずつ光が漏れるような幻想的な響きが広がる。

6. G.ガーシュウィン作曲 ラプソディ・イン・ブルー（江口 玲 編曲より）

ジョージ・ガーシュウィン（1898 年 9 月 26 日～1937 年 7 月 11 日）は、アメリカの作曲家。ショーやミュージカルなどにおいて数々のヒット作を残したとともに、クラシック音楽とジャズ・ブルースなどのポピュラー音楽を融合させたことでも知られている。この曲は厳密には〈シンフォニック・ジャズ〉というジャンルに属しており、ジャズ特有の音型や語法が全面的に表れている一方で、協奏曲的な楽器構成で書かれている。また、ジャズやブルースなどのアフリカン・アメリカン・ミュージックに特有のシンコペーション（拍のずれ）やブルーノートと呼ばれ

る特徴的な音、ポピュラー音楽によく見られる裏拍のリズムが多用されている。穏やかさと快活さ、交響曲のような壮大さと、民族的な軽やかさなどの統合によってダイナミックに曲が進行していく。この曲が作曲された 1924 年の辺りから、世界的に近代西洋優位だった音楽の価値観の転換が起き始めていた。この曲もまた移住者による多文化国家であるアメリカだからこそその新しい音楽性のもとで生まれたといってもよいだろう。今回演奏する江口玲氏のピアノ・ソロ編曲版（時間などの都合によりカットと少々のアレンジを加えている）は、一般に普及しているグローフェのオーケストレーションによる版をピアノにほぼ忠実に再現したものであり、ガーシュウィン本人によるピアノ・ソロバージョンよりも充実したオーケストレーションと高い演奏効果を得られるものとなっている。

参考

「THE NEW GROVE Dictionary of MUSIC & MUSICIANS (1980)」

江口玲編曲 「G.ガーシュウィン ピアノ作品集」__全音楽譜出版社

「音楽大事典」__平凡社

小坂裕子著 「作曲家◎人と作品-ショパン」__音楽之友社

高橋浩子他著 「西洋音楽の歴史」__東京書籍

柘植元一 塚原健一編「はじめての世界音楽」__音楽之友社

柴田南雄著 「西洋音楽史 印象派以後」__音楽之友社

「標準音楽辞典」__音楽之友社

指導者ご紹介 片岡亮太

和太鼓奏者/パーカッショニスト/社会福祉士。

1984 年生まれ。静岡県三島市出身。 11 歳の時に盲学校の授業で和太鼓と出会う。2007 年、上智大学文学部社会福祉学科首席卒業、社会福祉士の資格取得。同年よりプロ奏者としての活動を開始。2011 年、ダスキン愛の輪基金「障害者リーダー育成海外研修派遣事業」第 30 期研修生として 1 年間単身ニューヨークで暮らし、ライブ、イベントへの出演や、コロンビア大学内の教育学専攻大学院ティーチャーズ・カレッジにてノン・ディグリー・スチューデントとして障害学を学ぶなど研鑽を積む。

邦楽打楽器(和太鼓、小鼓他)を邦楽打楽器奏者仙堂新太郎、大太鼓を太鼓奏者はせみきた、パーカッションをドラマー・パーカッショニストのヴァンダレイ・ペレイラ各師に師事。

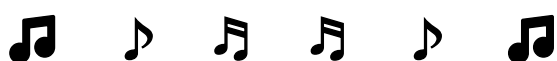
演奏、指導、講演、執筆、メディア出演など多岐にわたる活動を展開。2016 年、今後の活躍が期待される若手視覚障害者に贈られる「第 14 回チャレンジ賞」(社会福祉法人視覚障害者支援総合センター主催)受賞。2019 年、今後の活躍が期待される若手障害者に贈られる「第 13 回塙保己一（はなわ ほきいち）賞奨励賞」(埼玉県主催)等受賞。

演奏者ご紹介 澤村祐司

生田流箏曲宮城社大師範、金津千重子に師事。東京藝大を卒業後同大学院修了。

古典等の演奏の他、作編曲にも取り組む。「第2回 八橋検校日本音楽コンクール」八橋検校賞、「第19回くまもと全国邦楽コンクール」優秀賞授賞。2015年、18年にリサイタル開催。

ダンサー森山開次演出による創作舞「HAGOROMO」「雨二モマケズ」で能楽師 津村禮次郎氏と共演。熊本県立松橋西支援学校の校歌作曲。箏・三絃・尺八による代合奏「月三章」を作曲。朗読ミュージカル「山崎陽子の世界」に演奏と作曲で参加、有馬稲子・小山明子氏と共演。宮城社師範。(株)セールスフォース・ジャパン所属アーティスト。筑波大学附属視覚特別支援学校、明治大学三曲研究部非常勤講師。詩と音楽の VOICE SPACE 代表。点字楽譜利用連絡会副代表。



音楽科生徒

高等部 1 年 長縄美波 矢部菜央

高等部 2 年 井上奏人

高等部 3 年 相原晴 森谷涼太郎

実行委員長 井上奏人

顧問 宮脇美歌



主催 筑波大学附属視覚特別支援学校音楽科

お問い合わせ music@nsfb.tsukuba.ac.jp

03-3943-5423(中高職員室)